



かもみーる通信

CONTENTS

- * メンター制度
- * カモミール月曆

- * 社会活動演習
「遊んで・作って・演奏をしよう！」
- * サイエンス夢追い人育成プロジェクト

- * 研究倫理研修
- * 保育園たより

メンター制度

岐阜大学が取組むメンター制度とは

日本における女性研究者比率は依然として低い状況にあります。本事業では、研究者を志す女子学生や女性研究者が生活、学業、進路選択、キャリア形成などの悩みを抱えた際に、同様の経験を乗り越えてきた先輩研究者（メンター）に相談する機会を提供することを通じて、女性研究者の育成および研究者としてのキャリア形成を支援する制度です。

ご相談の初回は男女共同参画推進室の担当教員が対応します。相談内容に応じてより専門分野の近いメンターに引き継ぐこともできます。相談内容は【秘密厳守】です。ご安心ください。

利用方法

1. カモミール・カフェ（内線：3397 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp）に利用をお申込みください。
↓
2. カモミール・カフェにて、担当教員がメンター制度の説明および相談内容をお聞きします。
↓
3. 相談内容から担当教員がメンターを選定・紹介し、相談日程を調整の上、ご連絡します。相談場所はカモミール・カフェとなります。
↓
4. 当日、カモミール・カフェにてメンターと面談をおこないます。

- 1回の面談は30分から1時間程度です。
- 個別面談の他、グループ面談も受け付けます。
- 2回目以降はメンターと相談の上、面談の日程と場所を決めていただきます。
- E-mail, 電話での相談については情報の管理方法や相談可能時間についてメンターとよくご相談ください。
- 悩みが深く体調不良が生じている場合や、セクハラ・アカハラ相談等、別途の対応が必要な場合には、学内外の適切な相談窓口をご案内します。
- 秘密は厳守されます。

カモミール月曆（室長からのメッセージ）



副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

学生のためのキャリアセミナー in 岐阜大学

2019年12月18日（水）、日経ウーマノミクス・プロジェクト実行委員会、岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門 主催、男女共同参画推進室 共催の「学生のためのキャリアセミナー」が開催されました。「女子学生のためのキャリアセミナー」は、日本経済新聞社が推進するプロジェクトの一環で、女性が活躍できる会社の特徴やワーク・ライフ・バランスの現状と課題などを解説するとともに、実際に働いている先輩女性の生の声を女子学生に伝えることを趣旨としており、すでに全国11大学（予定分を含む）での開催実績のある充実したセミナーです。今回は男女ともに対象とするキャリアセミナーとして企画し、40名の学生参加者を得て、今後の就職活動に向けて大変有意義な機会となりました。

第一部【講演】は、日本経済新聞 女性面編集長・中村奈都子 氏による「自分らしく働くために今、知っておきたい3つのこと」。その3項目は次のように提唱されました。

Knowledge is Power

本を読み、人と会い、旅をすることで世界は広がる

アウトプット力を高めよう

- ・アウトプット力とは、不安や不満、不便や不公平を解決する力
解決力＝アイデア×実行力
- ・アウトプット力を高めるにはニュースを見て、問題の解決策を考える
- ・考えるときのポイントは縦（歴史）と横（海外）

仕事と学びとライフイベントのバランスを考える

自分の人生で大切なものは？／自分らしい生き方って何？／
自分にとっての仕事とは？／自分らしく生きるための働き方とは？

中村氏は日本の会社を変える2つのキーワードとして、「働き方改革」と「ダイバーシティ」を指摘し、優良企業を見分ける指標として次の項目を挙げられました。

- ◆ 経営トップがダイバーシティ推進を経営戦略に掲げ、社内外に発信しているか
- ◆ ダイバーシティ推進に関する具体的な目標や、推進体制が整っているか
- ◆ 全社員を対象として働き方の見直しに取り組んでいるか
- ◆ 在宅勤務等、多様な働き方を実現できる制度はあるか、利用は進んでいるか
- ◆ 女性が活躍できているか。女性役員や女性管理職の数（割合）の水準

講演の最後に挙げられた「Tips」も、参加した学生の皆さんにとって具体的に有益な助言に満ち、示唆に富む内容でした。

1. 毎日15分でも本を読む
2. 読書や勉強・体験で得た知識は、人に伝えることで身につく
3. ニュースや日常で感じた問題について、自分なりの解決策を考える
4. 解決策をいろいろな人と話し合う
5. 英語で話したら世界は広がる

セミナーの第二部は、アピ株式会社の堀 留彌 さん、十六銀行の後藤育実さん、東京海上日動火災保険会社の浅井亜希さんによる【パネルディスカッション】「将来の自分をイメージしよう～先輩社員から学ぶ」。工学部卒業・大学院工学研究科修了の堀さん、地域科学部卒業の後藤さん、そして南山大学経営学部卒業で現在、岐阜支店で活躍なさっている浅井さん、3人のパネリストの方々は、いずれも充実した学生生活のエピソードとともに、現在の部署でのより良い職場づくりの実践例を語ってくださいました。紙幅の都合で詳細は省略せざるを得ませんが、3人の方々が語ってくださった自己研鑽ストーリーが、中村奈都子 編集長による講演内容と見事に対応し交響していることが、深く印象に残りました。男女を問わず、参加学生の皆さんにとって、自らのライフデザインのシナリオづくりに有益なパネルディスカッションとなったのではないのでしょうか。

後日、日本経済新聞社 人材教育事業局のご担当者から送られてきたアンケート結果によれば、今回のキャリアセミナーに「とても満足した」「満足した」と回答した参加者は93.5%。「パネリストそれぞれ働き方が異なっていて非常に有意義な時間だった。」「中村さんのお話を伺えたのが本当に良かった。できればもっと早く聞きたい講演であったため、大学1・2年生も参加しやすいセミナーを設けてほしい。」「とてもためになり、将来のことを考える機会になってよかったです。」など、学生の皆さんにも大変好評であったことがうかがえました。今後も、男女共同参画推進室／人材開発部職員育成課では、さまざまな連携によって、構成員の皆さんがご自身のライフデザインを描く上で有意義な企画を展開してゆきたいと願っています。

岐大生と一緒に

参加
無料

遊んで・作って・演奏をしよう！

募集定員
12組

元気な幼児～小学生のお子さん大募集♪

岐阜大学地域科学部の近藤真庸教授のもと、社会活動演習「地域の子育て支援 2019」のプロジェクトメンバーである**10名の大学1年生**と一緒に、**写真たて作り、ゲーム、楽器作り、楽器伴奏に合せて歌って踊って**楽しい時間を過ごしましょう！

Click →

日 時： 2月15日（土）13：15～15：30（12：45～受付）

場 所： 地域科学部 地101講義室

お父さんの参加大歓迎。兄弟姉妹、ご一緒にどうぞ！



申込方法：<shinyo118@yahoo.co.jp>宛、メールでお申し込みください。折り返し連絡します。

【主催】岐阜大学地域科学部 近藤真庸研究室 【後援】岐阜大学男女共同参画推進室



サイエンス夢追い人育成プロジェクト

（女子大学院生による出前講義）

12月13日（金）、岐阜県立岐阜農林高校において大学院生の松本昇子さん（自然科学技術研究科 修士課程2年）が出前講義を実施しました。

松本さんは、「私の進路—大学生を終えて思うこと—」と題して動物科学科1年生（40名）を前に、大学生活や研究内容、そして幼少期から現在に至るまでの興味関心と進路選択の経緯などについて語り、生徒たちは45分間の講義に熱心に耳を傾けました。

講義後には質疑応答の時間が設けられ、「野生動物を守りたいが、どのような職業がありますか？」といった質問など、活発な質疑応答がおこなわれました。



12月16日（月）、岐阜県立岐山高校において出前講義（第144回）を実施しました。この日は大学院生の松本昇子さん（自然科学技術研究科 修士課程2年）および榊原叶子さん（自然科学技術研究科 修士課程2年）が登壇し、理数科の2年生（78名）が院生の研究分野と自身の関心に基づいて2クラスに分かれて受講しました。

榊原叶子さんは、「工学部で科学する」と題して、岐阜大学工学部で学べる研究内容やご自身の研究テーマである環境負荷の小さいセラミックスの加工方法について説明したほか、在学中に熱心に取り組んだ学生フォーミュラや環境活動などについても紹介しました。終了後のアンケートには、「進路選択に関する話が参考になった」「セラミックスの研究に関する話が興味深く、もっと聞きたいと思った」など、大学受験を約1年後に控えた高校生たちにとって有意義な時間になったようです。





文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

キャリアパス支援後援会

Click ↓



ノーベル賞の薬
イベルメクチンを妊婦や子供に届けるために
～ 女性薬剤師が研究者となり夢の実現へ ～

日時：1月28日（火）15：00～16：30

場所：岐阜薬科大学本部 第二講義室

講師：小茂田 昌代 氏 東京理科大学薬学部 教授

お問い合わせ：岐阜薬科大学ダイバーシティ推進室

TEL：058-230-8100 E-mail: diversity@gifu-pu.ac.jp

イベルメクチンは大村智先生が伊豆の土壌から発見し、2億人を河川盲目症から救ったことで、ノーベル賞につながった薬です。イベルメクチンは寄生虫感染症である疥癬やアタマジラミ症にも効果を発揮します。疥癬とはヒゼンダニが皮膚に寄生して発症し、集団発生となる場合が多く、国内において年間8万人以上、全世界においては年間約3億人の患者が存在します。疥癬治療には内服薬としてイベルメクチンが使用されてきましたが、イベルメクチンは内服薬であるため、時に全身的な副作用として皮膚や肝臓、血液障害が報告されており、安全性の面から妊婦や授乳婦、体重15kg（約4歳）未満の小児には使用できません。そこで、簡便で安全にイベルメクチンを使用する方法として「イベルメクチンのお風呂」を考案し、臨床試験を実施しました。また、日本ではピレスロイド系の薬が効かないアタマジラミ症が増えており、海外ではイベルメクチン外用剤が高い効果を発揮していました。そこで、関連団体に働きかけをおこない、厚生労働省を動かして日本への開発にこぎつけました。イベルメクチンの恩恵に日本人が最大限受けられるための女性研究者の戦いを紹介します。

保育園たより

ぱんだ

きりん

りす



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL：http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL：058-293-3397 FAX：058-293-3396 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。